

第1回 春吉橋を核とした空間利活用に関する技術研究会

■日 時 平成 25 年 11 月 25 日 (月)

9:30~12:00

■場 所 (株)西日本新聞会館 16 階

福岡国際ホール 志賀の間

■委員

・野田委員 (代)

・坂口委員

・立花委員

・帆足委員

・松永委員

・植松委員

・縄田委員 (代)

・辰巳委員

・牧角委員

・松本委員

委員発言要旨

- ・ 国体道路等の現状として、交通量（自動車、自転車、歩行者）を昼間 1 2 時間データで整理してあるが、夜間の交通特性も整理したほうがよい。
- ・ 春吉周辺で、まちづくりの新たな取り組みが行われている。そういった地域の取り組みに関しても調査し、整理したほうがよい。
- ・ 春吉橋周辺の国体道路の歩道が狭く、補修工事の実施により歩きにくいことがマイナスイメージとなっている。歩道については、整備後 5 ~ 10 年程度で補修が生じるようなものでなく、30 年間メンテナンスが不要となるような方策も検討するべきではないか。
- ・ ハード整備のみでなくソフト的展開による空間活用イメージに関する、今回検討のモデルとなるような国内外における先行事例を整理したほうがよい。
- ・ まちづくりの観点で、国体道路沿道や那珂川周辺における築年数が古い建物のデータ等を整理したほうがよい。
- ・ 天神と博多を結ぶという観点からいくと地上や地下鉄だけでなく、河川を使う事業者の観点からの意見も必要ではないか。
- ・ 自転車の放置がかなり見受けられた。将来に向けた対応策が必要ではないか。
- ・ 犯罪を防ぐ観点から、交通計画や街路空間の設計を工夫する仕組みづくりを検討すべきではないか。
- ・ 道路づくり・橋づくりには、住む人の暮らしやすさや観光客の快適性という観点からの意見を生かすことが必要ではないか。国体道路に対しては、歩道がデコボコしているうえ自転車が多く歩きにくい、福岡の歴史を感じる施設はあるが、その通りが分かりづらいといった意見が多い。地域が愛せるようなまちづくりの視点が必要ではないか。

- ・ 国体道路を楽しむという視点でいくと春吉橋や川沿いが非常に大切になっていく。昔は川に降りていくことが出来て、愛着を感じている方もいるので、そういった水辺を活かし親しみが持てるような工夫が必要ではないか。
- ・ 今回の春吉橋の架け替えをきっかけに、空間づくりをどうするかが大切。行政的な手続きだけではなく、何か市民を巻き込んだプロセスに配慮することが必要である。

以上